

二つのバビロン (黙示録 17~18 章)

■はじめに

熊本集会では、中川先生のメッセージ・シリーズ「黙示録」に基づいて、終末に起きる出来事を時系列で見えています。これまでに、下の3番の表「この後に起きる事」、④の「大患難期の後半期」までを学びました。

本日は、⑤の「二つのバビロン」、黙示録 17 章と 18 章です。

■黙示録のアウトラインと概要

1. 黙示録のアウトライン (1 : 19)

(1) 序文 (1 : 1~8)

(2) **ヨハネの見た事** = 天におられる主イエス・キリストの姿と啓示 (1 : 9~20)

(3) **今ある事** = 七つの教会に宛てた手紙 (2 章~3 章)

(4) **この後に起きる事** = 大患難期・メシアの王国・永遠の秩序 (4 章~22 : 5)

(5) 結語 (22 : 6~21)

2. **今ある事** = 当時実在した教会の状況→教会時代の七つの流れを預言したもの
→携挙のときに存在する教会のタイプは⑦に限らず、特に④⑥

	教会名	意味=特色	時代区分	時期
①	エペソ	好ましい	使徒時代 (第 2 世代)	30~ 100
②	スミルナ	没薬	ローマの迫害の時代	100~ 313
③	ペルガモ	結婚した	国家教会となった時代	313~ 600
④	テアテラ	継続した犠牲	分裂と暗黒の時代	600~1517
⑤	サルデス	逃れる者	宗教改革の時代	1517~1648
⑥	フィラデルフィア	兄弟愛	大宣教運動の時代	1648~1900
⑦	ラオデキア	人々が支配する	背教の時代	1900~現在

3. **この後に起きる事**

	区分	黙示録の箇所	
①	大患難期の前に天で起きる事	4 章~5 章	
②	大患難期【7年間】	前半期	6 章~9 章
③		途中で起きる事	10 章~14 章
④		後半期	15 章~16 章
⑤		二つのバビロン	17 章~18 章
⑥		再臨とその後の出来事	19 章~20 : 3
⑦	メシアの王国【千年間】	20 : 4~6	
⑧	メシアの王国の後の出来事	20 : 7~15	
⑨	永遠の秩序	21 章~22 : 5	

■ **この後に起きる事** 3-⑤ 二つのバビロン (黙示録 17 章～18 章)

1. 二つのバビロンとは (フルクテンバウム博士の「The Footsteps of the Messiah」に基づく要約 作成：清水)
 - (1) ユーフラテス川流域の古代都市バビロンが、将来、世界的に重要な都市として再登場する。
 - ① 大患難期の前半期は、世界統一宗教の総本山を擁する都市、すなわち「宗教的バビロン」である。経済的にも中心地となる。
 - ② 大患難期の後半期は、反キリストによる世界統治の首都、すなわち「政治的バビロン」である。反キリストは自らを神と宣言し、自分の像を人々に拝ませるので、政治・経済・宗教の3分野すべての中心地となる。
 - (2) 宗教的バビロン
 - ① 大患難期に入る前に、「教会の携挙」が起きる。携挙のあとに地上に残った偽の教会は、世界の宗教をひとつに統一し、宗教間の紛争に終止符を打つ。そして、その統一宗教の総本山をバビロンに置く。
 - ② 宗教的バビロンは世界の宗教界を支配すると同時に、世界経済の中心地となり、世界中の富が集まる。このため世界政治にも大きな影響力を持つ。「地上の王たちを支配する大きな都」(黙 17 : 18) と呼ばれる。
 - ③ 大患難期前半において、世界中でユダヤ人 14 万 4 千人が福音宣教をする。その結果、イエスをメシアと信じて救いを受ける人々が大勢起こされる。宗教的バビロンは、そのような人々を迫害し、殉教に至らせる。
 - ④ 大患難期前半期の終わりごろ (中間期) に、反キリストと彼に従った王たちによって滅ぼされる。
 - (3) 政治的バビロン
 - ① 世界政治のリーダーは 10 人。世界を 10 の地域に分けて統治する体制を「10 人の王」と呼ぶ。第一の封印が解かれると、反キリストが 11 番目の王として登場し台頭してくる。
 - ② 大患難期前半期の終わりごろ (中間期)、反キリストは 10 人の王と戦い、いったん戦死するが、蘇生し、10 人のうち 3 人を倒す。残る 7 人は、反キリストに服従する。「10 人の王」体制は継続されるが、反キリストは 7 人の王を従え、「10 人の王」体制の上に立つ「王の王」となる。
 - ③ 反キリストは、自らを神として君臨するため、宗教的バビロンの権威を否定する。かねてより、宗教的バビロンの繁栄と専横ぶりを内心では苦々しく思っていた「10 人の王」体制は反キリストと共に、バビロンを攻撃して宗教的バビロンを滅ぼす。(黙 17 : 16～17)
 - ④ 反キリストは、バビロンを世界統治の首都とする。
 - ⑤ 反キリストは、エルサレムの二人の証人を殺し、神殿を占拠し、自分の像を置く。この日から、大患難期後半期 3 年半が始まる。
 - ⑥ 大患難期の末期、反キリストは世界の王たちをハルマゲドンに集結させ、ユダヤ人根絶のための戦いを準備する。そのとき、バビロンが攻撃を受け、1 日で壊滅する。その立ち上る煙を、王たちは「遠く離れて」見ることになる (黙 18 : 8～10)

2. 宗教的バビロン (黙 17 章)

(1) 大水の上に座っている大淫婦 (1~2 節)

- ① 大水=「もろもろの民族、群衆、国民、国語」(15 節)、海は異邦人世界を象徴する(ダニ、黙)
- ② 淫婦
 - 旧約聖書では、「女」は宗教を象徴する
 - 旧約聖書では、「淫婦」とは、ヤハウエの妻であるイスラエル民族が真の神を捨て偶像崇拜に走ったことを指す。
 - 黙示録の「淫婦」は、メシアの花嫁のようなふりをして、その実はメシアとは関係のない背教の教会である。携挙の時に地上に残ったキリスト教界の人たちによって構成される。
- ③ 不品行=淫行は、靈的姦淫、とくに偶像礼拝を象徴する。
 - 聖書の神を信じるふりをして偶像を拝むのは、靈的姦淫である。
 - 偶像を拝まなくても、神よりも金銀財宝を愛することも、靈的姦淫である。
- ④ 不品行のぶどう酒に酔った
 - 背教の教会での祭儀は、目や耳に麗しく、人を酔わせる力がある。
 - 偽の宗教に酔ったことのある人を靈的に導くのは、難しい。

(2) 緋色の獣に乗っている女 (3~6 節)

- ① 3 節 ヨハネは、荒野に連れて行かれる。荒野に「ひとりの女」がいたのではなく、展望台のような場所である荒野に立って、「ひとりの女」を見た。恐らく、荒野から東の方、ユーフラテス川の方向を展望したのであろう。
- ② 緋色の獣、七つの頭と十本の角=反キリストと 10 人の王
- ③ 緋色の獣の上に、紫と緋の衣を着たひとりの女が座っている=10 人の王と反キリスト) は、その女の支配下にある。
 - 紫と緋の衣(参照、黙 18 : 12、16)
- ④ 4 節: この女は、多くの富を有し、外面的には非常に魅力的である。金の杯は、儀礼的宗教の象徴。外面は輝いて見えるが、中は汚れに満ちていた。
- ⑤ 5 節: この女は、大淫婦であり、大バビロン=宗教的バビロンである。
- ⑥ 6 節: この女は、聖徒たちとイエスの証人たちを殺す。彼らは、大患難期の前半期における殉教者たちである。彼らに宣教したのは、エルサレムでは二人の証人(ユダヤ人)、世界中では 14 万 4 千人のユダヤ人宣教師たちである。

(3) 緋色の獣についての解説 (7~14 節)

- ① 「あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。」(8 節)
 - 原文に「昔」とか「今」という言葉は使われていない。「いたが、おらず、やがて現れる」(8 節)とは、一度死んでからよみがえるという意味。
- ② そして彼は、ついには滅びます=大患難期の最後には滅びる(IIテサ 2 : 8、黙 19 : 20)
- ③ 世の初めからいのちの書に名をしるされていない者(8 節)=不信者
 - いのちの書・・・黙 3 : 5、
 - 小羊のいのちの書・・・黙 13 : 8、17 ; 8

(4) 女(大バビロン)の滅亡(15~18 節)

3. 政治的バビロン (黙 18 章)

- (1) 大バビロン崩壊の宣言 (1～3 節)
- (2) 大バビロンからの脱出 (4～5 節)
- (3) 大バビロンの罪の糾弾 (6～8 節)
- (4) 大バビロンの崩壊を嘆く人たち (9～19 節)
- (5) 大バビロンの崩壊を喜ぶ人たち (20 節)
- (6) 大バビロンの崩壊の描写 (21～24 節)

4. 補足

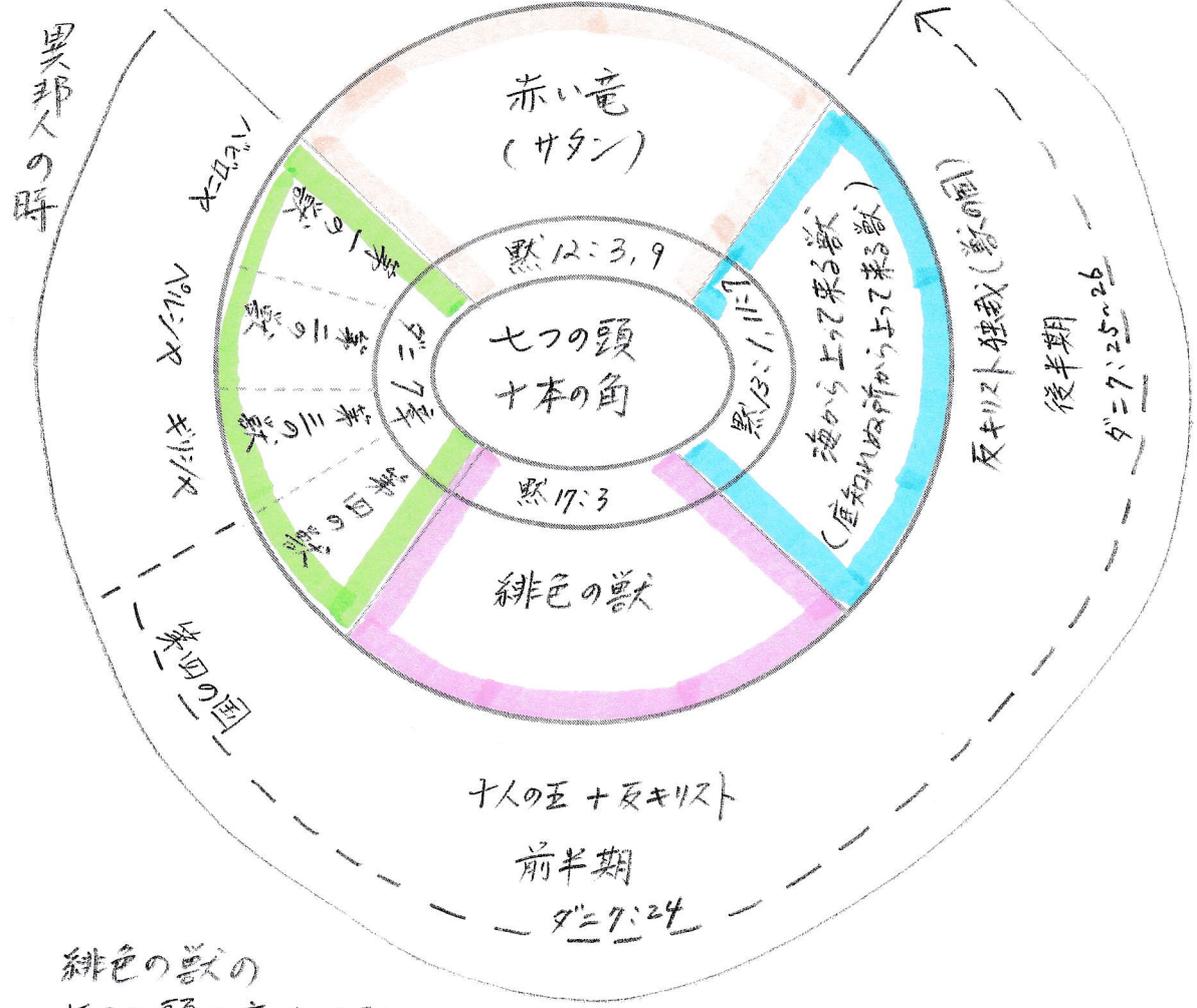
- (1) 後半期の末期、反キリストの首都バビロンを破壊するのは、誰か？

イザヤ 13 : 1～14 : 23 の預言 (フルクテンバウム博士の「The Footsteps of the Messiah」による)

- ① 13 章 3 節 「わたしに聖別された者たち」=信者たち
ユダヤ人の多くは、ボツラにいる。組織的に軍事行動を起こしてバビロンを攻撃するのは、異邦人である。よって、異邦人信者である。
- ② 9 節 大患難期の目的は、罪人たちを地から根絶やしにすること
- ③ 10 節 鉢の裁き 第 5 の鉢「暗黒の裁き」
- ④ 14～16 節 大バビロンに来ていた諸国民の間では絶望的なパニックが起きる。母国に逃げ遅れた者たちの悲惨な結末。
➤ この恐ろしい騒乱の中には、ユダヤ人は巻き込まれない。あらかじめ脱出することができたためである (黙 18 : 4～5、イザ 48 : 20、エレ 50 : 8)
- ⑤ 19～22 節 メシアの王国の時代には、バビロンは悪霊を拘束する場所となる。
- ⑥ 14 章 1～2 バビロンとは対照的にイスラエルの地は、祝福される (メシア王国の預言)
- ⑦ 4～11 節 反キリストの死 (ハルマゲドンの第 7 段階 霊魂)
- ⑧ 12～15 節 サタンに関する預言 15 節 2 回の「落とされる」=1 回目はアビスに千年間 (黙 20 : 3)、2 回目は火の池 (黙 20 : 10)
- ⑨ 16～21 節 反キリストの死 (ハルマゲドンの第 7 段階 遺体)
- ⑩ 22～23 節 メシアの王国の時代におけるバビロンの状況

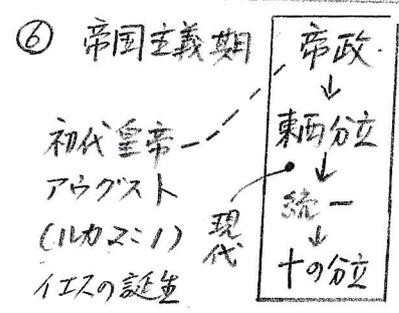
- (2) 黙示録を読み解く鍵「七つの頭と十本の角」(別図参照)

空中の権威者(=悪魔)を従え、この世の支配者
(エペソ2:2, ヨハネ12:31)



緋色の獣の
七つの頭の意味 (黙17:9-11)

- ① ロマ草創期 (王政)
- ② 国家形成期 (執政官制)
- ③ 内部対立期 (護民官 併立制)
- ④ 対抗克服 拡大期 (共和政)
- ⑤ 政体強化集中期 (寡頭政)



⑦ 絶対的帝国主義
" 緋色の獣
(中心的存在は反キリスト)